



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社博展

コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 玉井 昭

TEL 03-6278-0010

四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	3,977	6.7	△245	—	△250	—	△184	—
28年3月期第2四半期	3,728	—	35	—	33	—	15	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 △193百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 16百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	△48.26	—
28年3月期第2四半期	4.24	4.17

(注) 当社は平成27年3月期第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成28年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。また、平成29年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第2四半期	4,970	1,099	21.5	277.12
28年3月期	4,456	1,282	27.8	331.87

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 1,067百万円 28年3月期 1,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,400	16.2	120	△29.6	110	△31.9	70	△28.3	18.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社スプラシア、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	3,853,200 株	28年3月期	3,737,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	— 株	28年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	3,814,466 株	28年3月期2Q	3,696,289 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、平成28年12月6日(火)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する決算補足資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(3) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	12
(1) (要約)四半期個別貸借対照表	12
(2) (要約)四半期個別損益計算書	13
(3) 生産、受注及び販売の状況	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、アベノミクスによる経済対策や金融の異次元緩和によって企業業績や雇用情勢は底堅く推移したものの、移民問題に揺れる欧州経済や中国をはじめとする新興国経済の変調、急激な為替変動などによる企業収益の下振れリスク等、景気の先行きは引き続き視界不良な状況が続いております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界におきましても、景気動向の不透明感に影響を受け、販促イベント開催や合同展示会への出展など、一定の底堅いニーズは継続しているものの、市場環境はほぼ横ばいの水準で推移しております。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING」(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)の実現に向け、Experienceマーケティングサービス(人と人が出会う“場”・“空間”とそこで生み出される体験に焦点を当て、感動価値・経験価値を最大化し、クライアントのブランド価値や商品価値向上とともに実現していくこと)の提供を通じて、クライアントのマーケティング・パートナーへと進化すべく、新たな市場・次世代型サービスの創出という挑戦に焦点を当て事業を推進してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、39億77百万円(前年同四半期比6.7%増)となりました。一方で、拡大する業容に対応するためのオフィス環境整備費用や新領域開拓のためのチャレンジ投資等、先行投資費用を当第2四半期連結累計期間での営業収益では負担しきれなかったため、営業損失は2億45百万円(前年同四半期は営業利益35百万円)、経常損失は2億50百万円(前年同四半期は経常利益33百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億84百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益15百万円)となりました。

なお、当社の当第2四半期累計期間における売上高は、36億87百万円(前年同四半期比6.5%増)、営業損失は81百万円(前年同四半期は営業利益89百万円)、経常損失は86百万円(前年同四半期は経常利益86百万円)、四半期純損失は62百万円(前年同四半期は四半期純利益55百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。また、第1四半期連結会計期間に完全子会社化したスプラシアは「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に含んでおります。詳細につきましては、「3 四半期連結財務諸表 (4)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業

リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業におきましては、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。

イベント・展示会市場での競争環境は日ごとに厳しくなっており、単なる価格面での競争に埋没することなく、デジタル技術を駆使した新たな体験価値の提供や、イベント出展効果の最大化・最適化を実現しクライアントの期待に応える新たな付加価値を創出することが求められております。

今までにない体験価値をリアルとデジタルの融合によって創出し、クライアントの売上拡大やブランド価値向上に繋げる手法や施策を提案・提供するとともに、大規模化する商談会やセミナーなどの事業領域においても、デジタル技術を活用したクライアントの課題解決に応えるサービスコンテンツの拡充に努めたこと等により、当第2四半期連結累計期間における売上高は36億87百万円(前年同四半期比6.5%増)と微増となりました。一方、利益面につきましては、多様化するクライアントの課題に対し、最適な企画実現のために必要な専門スキルを有する人材獲得費用、大規模・複雑化するプロジェクトのディレクション関係費用、拡大する業容に対応するためのオフィス環境整備費用などが増加したことにより、第2四半期連結累計期間におけるセグメント損失は1億19百万円(前年同四半期はセグメント利益89百万円)となりました。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業におきましては、インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築、オフショアを活用した高品質・高付加価値アプリケーション制作、B2C向けサービスコンテンツの制作・配信・管理プラットフォームや次世代型デジタルサイネージの提供、最先端テクノロジーであるAI・コグニティブ&ロボティクスなどを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

進化を続けるデジタルテクノロジーを駆使し、クライアントが抱える潜在的な課題解決を図ると共に、次世代型マーケティング&コミュニケーションを創出するためのサービスの開発や、グループ間連携の強化に向けた事業基盤整備、新たな事業領域への挑戦のための戦略的M&A投資など、中期的視点にたった先行投資を積極的に推進してきたことにより、当第2四半期連結累計期間における売上高は3億49百万円(前年同四半期比25.0%増)、セグメント損失は68百万円(前年同四半期はセグメント損失31百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計49億70百万円(前連結会計年度末比11.5%増)、負債合計38億70百万円(前連結会計年度末比21.9%増)、純資産合計10億99百万円(前連結会計年度末比14.2%減)となりました。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は34億62百万円(前連結会計年度末比1億49百万円減少)となりました。これは、売掛金の回収が進んだことにより受取手形及び売掛金が前連結会計年度末比4億88百万円減少したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は15億8百万円(前連結会計年度末比6億62百万円増加)となりました。これは、スプラシアを子会社化したこと等に伴い、無形固定資産が前連結会計年度末比5億92百万円増加したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は20億6百万円(前連結会計年度末比23百万円増加)となりました。これは、主に業容拡大しているリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業における事業運転資金のための新規借入を行ったことにより、1年内返済予定の長期借入金が前連結会計年度末比3億39百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は18億64百万円(前連結会計年度末比6億72百万円増加)となりました。これは、主にデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業における戦略的M&A投資のための新規借入を行ったことにより、長期借入金が前連結会計年度末比6億1百万円増加したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は10億99百万円(前連結会計年度末比1億82百万円減少)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したこと等により利益剰余金が前連結会計年度末比2億36百万円減少したことが主な要因となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ2億3百万円増加し、16億64百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は44百万円(前年同四半期は66百万円の使用)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失2億55百万円、仕入債務の減少額1億75百万円及び法人税等の支払額1億23百万円等が売上債権の減少額5億20百万円等を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は5億56百万円(前年同四半期は40百万円の使用)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出69百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出3億86百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は8億4百万円(前年同四半期は60百万円の獲得)となりました。

これは主に、長期借入れによる収入13億76百万円が、長期借入金の返済による支出4億99百万円等を上回ったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年11月2日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、株式会社スプラシアの株式を100%取得し子会社化したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。なお、同社は特定子会社に該当していません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ444千円減少しております。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,461,109	1,664,619
受取手形及び売掛金	1,783,639	1,295,211
製品	4,188	4,880
仕掛品	228,714	239,647
原材料及び貯蔵品	3,498	3,698
その他	134,961	257,548
貸倒引当金	△4,673	△3,398
流動資産合計	3,611,438	3,462,209
固定資産		
有形固定資産	209,589	228,811
無形固定資産		
のれん	117,765	347,763
その他	355,697	717,876
無形固定資産合計	473,462	1,065,640
投資その他の資産		
その他	163,712	215,125
貸倒引当金	△1,335	△1,305
投資その他の資産合計	162,377	213,820
固定資産合計	845,429	1,508,272
資産合計	4,456,867	4,970,481
負債の部		
流動負債		
買掛金	641,249	514,967
1年内返済予定の長期借入金	769,592	1,109,148
未払法人税等	122,512	6,784
賞与引当金	159,337	102,765
工事補償引当金	9,208	5,351
工事損失引当金	—	3,219
その他	280,650	264,117
流動負債合計	1,982,551	2,006,354
固定負債		
長期借入金	1,062,550	1,663,776
その他	129,584	200,446
固定負債合計	1,192,134	1,864,223
負債合計	3,174,686	3,870,578
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,299	174,299
資本剰余金	225,736	289,181
利益剰余金	835,842	599,434
株主資本合計	1,235,878	1,062,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,336	4,875
その他の包括利益累計額合計	4,336	4,875
新株予約権	2,336	2,299
非支配株主持分	39,630	29,812
純資産合計	1,282,181	1,099,903
負債純資産合計	4,456,867	4,970,481

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	3,728,503	3,977,726
売上原価	2,791,502	3,041,121
売上総利益	937,000	936,605
販売費及び一般管理費	901,635	1,182,151
営業利益又は営業損失(△)	35,365	△245,546
営業外収益		
受取利息	27	3
受取配当金	85	123
貸倒引当金戻入額	357	1,795
雑収入	2,192	1,549
営業外収益合計	2,663	3,471
営業外費用		
支払利息	4,611	7,041
雑損失	362	1,182
営業外費用合計	4,973	8,224
経常利益又は経常損失(△)	33,055	△250,298
特別損失		
固定資産除却損	—	4,829
特別損失合計	—	4,829
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	33,055	△255,128
法人税、住民税及び事業税	56,738	3,780
法人税等調整額	△39,340	△65,000
法人税等合計	17,398	△61,219
四半期純利益又は四半期純損失(△)	15,657	△193,908
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△9,818
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	15,657	△184,090

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	15,657	△193,908
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,259	539
その他の包括利益合計	1,259	539
四半期包括利益	16,917	△193,369
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,917	△183,550
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△9,818

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	33,055	△255,128
減価償却費	42,228	80,535
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△357	△1,886
賞与引当金の増減額(△は減少)	50,055	△57,610
工事補償引当金の増減額(△は減少)	—	△3,856
工事損失引当金の増減額(△は減少)	—	3,219
のれん償却額	9,095	41,736
受取利息及び受取配当金	△113	△126
固定資産除却損	—	4,829
支払利息	4,611	7,041
売上債権の増減額(△は増加)	123,745	520,656
たな卸資産の増減額(△は増加)	△123,884	△11,826
仕入債務の増減額(△は減少)	△114,628	△175,043
未払金の増減額(△は減少)	△36,085	△16,936
前払費用の増減額(△は増加)	△25,043	△50,690
未払費用の増減額(△は減少)	△20,635	△3,701
前受金の増減額(△は減少)	△18,556	29,024
未払消費税等の増減額(△は減少)	△36,068	△43,661
その他	22,930	12,386
小計	△89,651	78,960
利息及び配当金の受取額	113	126
利息の支払額	△4,614	△7,351
法人税等の支払額	△10,498	△123,264
法人税等の還付額	38,388	7,012
営業活動によるキャッシュ・フロー	△66,261	△44,515
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△44,759	△69,638
有形固定資産の売却による収入	1,757	67
無形固定資産の取得による支出	△10,911	△47,455
投資有価証券の取得による支出	△192	△209
敷金及び保証金の差入による支出	△43	△54,937
敷金及び保証金の回収による収入	11,761	2,209
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△386,637
その他	2,172	△151
投資活動によるキャッシュ・フロー	△40,215	△556,753
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400,000	1,376,000
長期借入金の返済による支出	△278,718	△499,619
リース債務の返済による支出	△13,791	△19,450
株式の発行による収入	5,025	—
配当金の支払額	△51,533	△52,150
財務活動によるキャッシュ・フロー	60,982	804,779
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△45,494	203,510
現金及び現金同等物の期首残高	1,195,603	1,461,109
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,150,108	1,664,619

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス& コミュニ ケーション	デジタルエクス ペリエンス& コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,463,168	265,335	3,728,503	—	3,728,503
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	14,266	14,266	△14,266	—
計	3,463,168	279,601	3,742,770	△14,266	3,728,503
セグメント利益又は損失(△)	89,123	△31,138	57,984	△22,618	35,365

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△22,618千円は、のれんの償却額△9,095千円、セグメント間取引△13,522千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス& コミュニ ケーション	デジタルエクス ペリエンス& コミュニ ケーション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,685,848	291,878	3,977,726	—	3,977,726
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,589	57,646	59,236	△59,236	—
計	3,687,438	349,525	4,036,963	△59,236	3,977,726
セグメント損失(△)	△119,376	△68,568	△187,945	△57,600	△245,546

(注) 1. セグメント損失の調整額△57,600千円は、のれんの償却額△41,736千円、セグメント間取引△15,864千円あります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当社グループの報告セグメントの区分は、前連結会計年度において「コミュニケーションデザイン事業」及び「Webインテグレーション事業」としておりましたが、第1四半期連結会計期間より「リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」及び「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に変更しております。

これは、従来Webインテグレーション事業に区分していた株式会社アイアクトの事業の変化及びタケロボ株式会社、株式会社スプラシアとの協業による様々なデジタルテクノロジーを組み合わせたサービス提供を開始したこと等により、「Webインテグレーション事業」としていた報告セグメント及び「コミュニケーションデバイス事業」としていた事業セグメントは新たに「デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」として区分し、従来「コミュニケーションデザイン事業」としていた報告セグメントは新たに「リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業」に名称を変更しました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の区分方法により作成しております。

4. 補足情報

(1) (要約)四半期個別貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,224,522	1,381,873
受取手形	144,351	66,796
売掛金	1,486,119	1,162,755
仕掛品	195,310	217,086
原材料及び貯蔵品	2,699	2,357
その他	121,402	222,182
貸倒引当金	△3,453	△2,783
流動資産合計	3,170,952	3,050,268
固定資産		
有形固定資産	200,223	220,370
無形固定資産	190,336	230,472
投資その他の資産		
その他	688,621	1,319,304
貸倒引当金	△1,335	△1,305
投資その他の資産合計	687,286	1,317,999
固定資産合計	1,077,846	1,768,842
資産合計	4,248,799	4,819,110
負債の部		
流動負債		
買掛金	588,268	466,888
1年内返済予定の長期借入金	741,870	1,059,009
未払法人税等	122,319	6,394
賞与引当金	138,998	90,000
工事補償引当金	9,208	5,351
その他	255,437	250,566
流動負債合計	1,856,101	1,878,210
固定負債		
長期借入金	1,032,472	1,616,765
その他	71,155	86,089
固定負債合計	1,103,627	1,702,854
負債合計	2,959,729	3,581,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,299	174,299
資本剰余金	228,433	291,878
利益剰余金	879,664	764,692
株主資本合計	1,282,397	1,230,870
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,336	4,875
評価・換算差額等合計	4,336	4,875
新株予約権	2,336	2,299
純資産合計	1,289,069	1,238,046
負債純資産合計	4,248,799	4,819,110

(2) (要約)四半期個別損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	3,463,168	3,687,438
売上原価	2,612,595	2,833,697
売上総利益	850,572	853,740
販売費及び一般管理費	761,448	935,733
営業利益又は営業損失(△)	89,123	△81,993
営業外収益	1,998	2,447
営業外費用	4,726	6,542
経常利益又は経常損失(△)	86,395	△86,088
特別損失	—	1,927
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	86,395	△88,015
法人税等	30,475	△25,361
四半期純利益又は四半期純損失(△)	55,919	△62,653

(注) 科目の区分掲記につきましては、要約して記載しております。

(3) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。前第2四半期連結累計期間の受注状況についても、変更後の区分方法により作成しております。

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	
	受注高(千円)	受注残高(千円)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	3,771,881	1,988,634
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	403,155	247,169
合計	4,175,036	2,235,804

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	3,554,252	94.2	1,961,935	98.7
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	418,095	103.7	338,395	136.9
合計	3,972,347	95.1	2,300,330	102.9

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。前第2四半期連結累計期間の販売実績についても、変更後の区分方法により作成しております。

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	3,463,168
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	265,335
合計(千円)	3,728,503

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

当第2四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	3,685,848	106.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	291,878	110.0
合計(千円)	3,977,726	106.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。